

トピックス その2

令和6年能登半島地震調査

令和6年1月1日16時10分頃、石川県能登地方で深さ約16kmを震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、石川県輪島市門前町走出、同県羽咋郡志賀町香能で最大震度7を観測しました。その他、珠洲市、七尾市、能登町、穴水町でも震度6強を観測しました。この地震を受け、当協会では鋼管・鋼製品の被害状況について水道事業体へのヒアリング等による情報収集を行いました。その結果、当該地域に設置されている水管橋について現地調査を実施しました。

1. 水管橋現地調査の概要

現地調査では、震度5強以上を観測した地域で、かつ当協会会員企業にて施工した水管橋を調査対象としました。現地調査に当たっては、安全に留意した上で、目視調査を主として管体部や構造部材はもとより、伸縮管や空気弁等の付帯構造物、支承部についても調査しました。調査結果は、図-1に示すチェックシート及び写真として記録しました。

2. 調査結果

図-2に示すように、能登半島付近を中心として現地へのアクセスが可能な延べ56橋について調査しました。写真-1に調査対象水管橋の例を示しますが、ほとんどの水管橋に落橋防止装置が設置されており、本地震による大きな被害は認められませんでした。ただし、本地震によるものかは不明ですが、一部の水管橋の空気弁部に軽微な漏水が確認されました。

過去の地震と同様に、本地震においても、落橋防止装置の有効性が確認されました。落橋防止装置未設置の水管橋については、設置の検討を推奨します。

3. 協会内の災害対応

当協会では、震度5強以上の地震発生の際には、直ちに災害対策本部を設置し、被災した水道事業体から被害状況について情報収集を行っております。収集した情報によっては、本地震において実施したように先遣調査団を現地に派遣し、さらなる情報収集に努めています。また、鋼管路や水管橋に大きな被害があった場合などには、災害特別委員会を設置し、調査団による詳細調査や技術的検討を行い、被害原因の究明や被害防止対策の確立などを進めることとしています。



図-1 現地調査用チェックシート

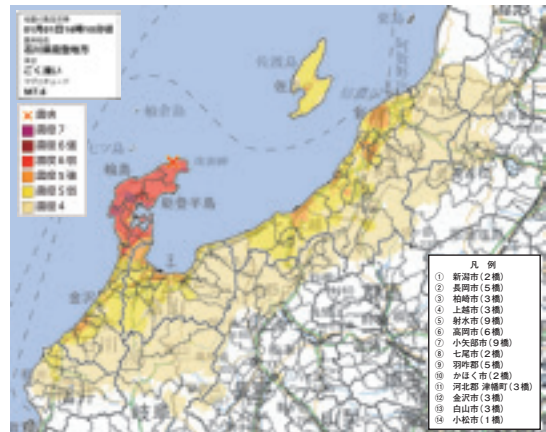


図-2 推計震度分布図および調査箇所
(出典：気象庁HP「推計震度分布図 令和6年01月01日16時10分 石川県能登地方 M7.6」)



写真-1 落橋防止構造 (現地調査事例)